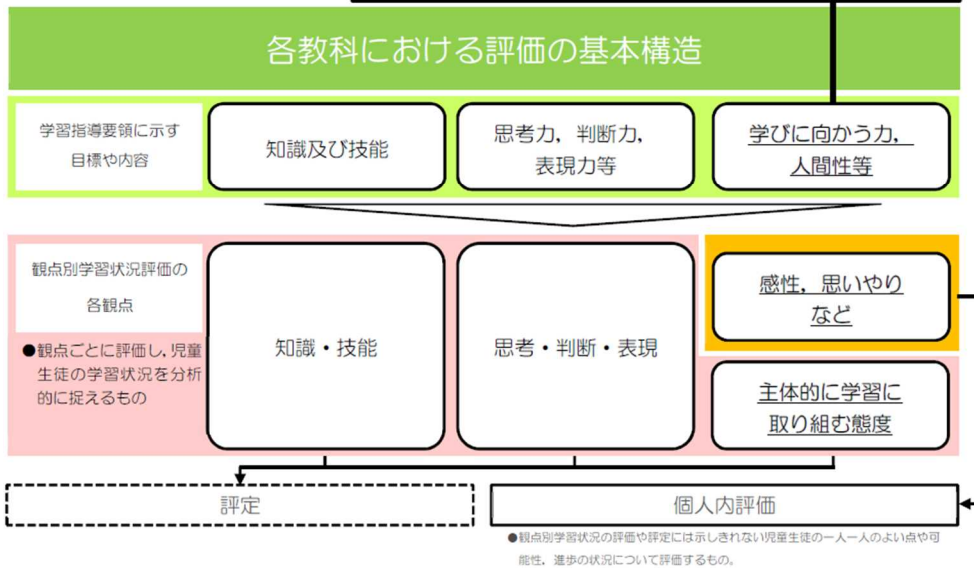


各教科の学習評価

学びの連続性の観点から、知的障害者である児童生徒のための各教科の目標や内容について、小学校等と同様に、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理されました。各教科の学習評価についても、小学校等と同様に、観点別学習状況の評価を行います。

ここで、各教科における評価について確認します。

「学びに向かう力、人間性等」には
 ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、
 ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。



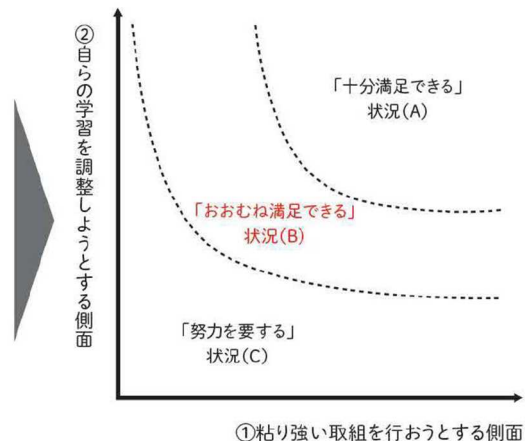
（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」）

「感性、思いやりなど」は観点別学習状況の評価の観点ではないため、学習評価としては行いません。しかし、知的障害を有する児童生徒においては、自己肯定感等を高めるために大切にしたいポイントと考えます。授業の中で児童生徒の良さを見付け、その都度、称賛するといった評価をすることが必要です。

※観点別学習状況の評価についてはp. 1-18でも紹介しています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。
- これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとして粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」）

目標及び評価規準について

「みやぎ授業づくりガイド」では、目標や評価規準を設定する際、小学校の生活科や総合的な学習の時間の考えを活用することを提案します。理由は、知的障害の学習上の特性を踏まえた指導の考え方である「実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるように指導することが効果的である」という点と親和性があるからです。p. 2-38～p. 2-45を具体的な目標や評価規準を設定する際の参考にしてください。

目標「知識及び技能」、評価規準「知識・技能」の考え方

目標については、資質・能力を踏まえて考えています（p. 1-17）。評価規準については、知識と技能を分けて考え、具体例を提案します。

目標「思考力、判断力、表現力等」、評価規準「思考・判断・表現」の考え方

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第5章第3節4(2)では、「考えるための技法」を活用することを求めています。この「考えるための技法」は「各教科等において、どのような『思考力、判断力、表現力等』を養いたいかということ踏まえつつ、児童の実態に応じて活用を図ることが期待される。」と記されています（中学校編も同様、高等学校編総合的な探究の時間はほぼ同様）。

この考えを基に、目標及び評価規準の設定ポイントを提案します。

目標「学びに向かう力、人間性等」の考え方

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編で記されている「自分自身に関すること」と「他者や社会との関わりに関すること」は、目標設定の視点になると考えます。

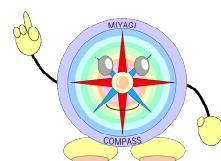
この考えを基に、目標設定の要素を提案します。

評価規準「主体的に学習に取り組む態度」の考え方

特別支援学校でも、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、小学校、中学校、高等学校同様に「粘り強さ」と「学習の調整」の二つの側面から評価することが求められています（p. 2-36下図を参照）。

「みやぎ授業づくりガイド」では、知的障害を有する児童生徒については、「粘り強さ」「学習の調整」に「学習評価に関する参考資料」の小学校生活科で示されている「実感や自信」を加えて考えることにし、具体例を提案します。

「学習評価に関する参考資料」で「学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童生徒の学習評価についても変わるものではない。」と示されています。



目標及び評価規準の設定ポイント

㊦ 知識及び技能

㊧ 知識・技能

第1章

教科別の指導

目標の設定	評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	知識	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習対象などと身に付けてほしい知識 ③ 児童生徒の状態 （具体的な児童生徒の姿「気付いている、分かっている、知っている、理解している」）
	技能	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 身に付けてほしい技能（器用に、素早く、ずっと、いつも、いつでも 等） ③ 児童生徒の行為 （具体的な児童生徒の姿「身に付けている、表している など」）

評価規準設定例（知識）

- 生活 ①遊具で遊ぶ活動において、②滑り台で遊ぶときは、順番があることを③理解している。
 （小学部 2段階エ遊び(イ)）
- 国語 ①友達からものを受け取る活動を通して、②「ありがとう」は、感謝の気持ちを表していることに③気付いている。
 （小学部 2段階ア言葉の特徴や使い方(ア)）
- 社会 ①地域の安全を守る仕事には、警察や消防署などがあり、②地域の人々と協力していることが③分かっている。
 （中学部 1段階ウ地域の安全(ア)㊦）

評価規準設定例（技能）

- 国語 ①挨拶の仕方の学習において、②いつも口の大きさに気を付けて、③話している。
 （小学部 3段階ア言葉の特徴や使い方(イ)）
- 音楽 ①合奏において、②音楽を感じながら安定して、③ハンドベルを演奏（鳴ら）している。
 （小学部 1段階A表現ア音楽遊び(ウ)㊦）
- 職業 ①情報機器の活用に関する学習において、②ローマ字表を見ながら、③キーボード入力をしている。
 （中学部 2段階B情報機器の活用ア）

音楽の技能の評価規準については、小学校の学習指導要領を基に設定する場合、「A表現」の文末は「歌っている」「演奏している」「音楽をつくっている」より選択して作成する。なお、「B鑑賞」の題材においては設定しない。

〔参考〕学習評価に関する参考資料、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」

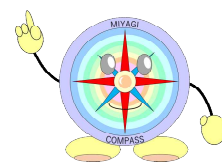
第2章（教科別の指導）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

教科別の評価規準について

知識は、
「児童生徒の気付いている（分かっている、知っている）状態」
 を考えます。
 技能は、
「習得した（習得している）知識を使って、何かをしている状態」
 を考えます。



各教科等を合わせた指導

目標の内容に取り入れるポイント	
知識及び技能	① 学習活動、学習場面、学習状況など ② 児童生徒に身に付く「知識及び技能」 （～ができる。分かる。理解する。身に付ける。できるようにする。等）



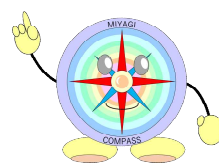
評価規準の設定
設定した単元（題材）の目標を達成した具体的な姿（目標と評価規準が同じになることもある）

目標設定例（知識及び技能）

- 日常生活の指導 ①朝の挨拶をする場面において、②相手の目を見て挨拶することができる。
 （小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において、いろいろな紙を使った②遊び方が分かる。
 （小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ①友達や教師、教室などの②新しい環境を理解し、②環境になじむことができる。
 （小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①木工の作業において、②自分の役割を理解するとともに、②道具の使い方を身に付ける。
 （中学部「木工作業」）

各教科等を合わせた指導について

知識面は、
「児童生徒に身に付けてほしい知識（「できる」「分かる」「理解する」）は何か」
 を考えます。
 技能面は、
「児童生徒に身に付けてほしい技能（「器用に～する（できる）」「素早く～する（できる）」「ずっと～する（できる）」「いつも～する（できる）」「いつでも～する（できる）」など）」は何か」
 を考えます。



目標及び評価規準の設定ポイント

㊦ 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 思考・判断・表現

第1章

教科別の指導

目標の設定		評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	→	思考・判断・ 表現	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習活動において期待する思考 ③ 「思考・判断・表現」している姿 （具体的な児童の姿）

評価規準設定例（思考・判断・表現）

- 生活 ①校庭の草花を観察する学習において、チューリップとタンポポが花の仲間であるという②同じところを見つけて、③教師や友達に教えている。 （小学部 2段階サ生命・自然(ア)）
- 算数 ①身近なものの学習において、自動車や自転車が乗るものであると②関連付けながら、③仲間分けをしている。 （小学部 1段階A数量の基礎イ(イ)㊦）
- 保健体育 ①水泳の学習において、ビート板を使いながらバタ足を②試して、どのような呼吸をすればよいかを③教師や友達に話そうとしている。 （中学部 1段階D水泳運動イ）

第2章（教科別の指導）

各教科等を合わせた指導

目標の内容に取り入れるポイント		評価規準の設定	
思考力、判断力、 表現力等	→	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習活動で見られる思考 ③ 児童生徒に身に付けてほしい「思考力、判断力、表現力等」 （～ができる。考える。広げる。できるようにする。等）	設定した単元（題材）の目標を達成した具体的な姿（目標と評価規準が同じになることもある）

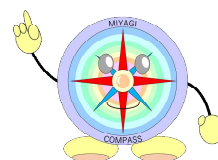
目標設定例（思考力、判断力、表現力等）

- 日常生活の指導 ①朝の会に参加することを通し、②一日の活動の順番を知り、③楽しんで参加している。 （小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において、②紙の感触を感じて、③遊んでいる。 （小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ②これまでとの違いを感じて、①友達や教師と③交流することができる。 （小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①自分の分担の作業について、②順番を考え、効率よくできるよう③工夫することができる。 （中学部「木工作業」）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

教科別の指導の評価規準「② 学習活動において期待する思考」と各教科等を合わせた指導の目標「② 学習活動で見られる思考」の部分の表記については、総合的な学習の時間の「考えるための技法」で整理した以下の表を参考にしてください。



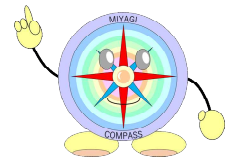
○ 「② 学習活動において期待する思考」、 「② 学習活動で見られる思考」の表記例

考えるための技法		表記例
順序付ける	<ul style="list-style-type: none"> 複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。 	<ul style="list-style-type: none"> 並べて 順番に並べて 並び替えて
比較する	<ul style="list-style-type: none"> 複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 比べて 比較して 違いに気付いて 〇〇を比べながら 同じところを見つけて 順番を考えながら
分類する	<ul style="list-style-type: none"> 複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特徴でまとめながら 違いで分けて
関連付ける	<ul style="list-style-type: none"> 複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。 ある対象に関係するものを見つけて増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇を例えて 知っていることで表しながら 関係付けて 関係を見付けて 関連付けながら 置き換えて 見立てて
多面的に見る・多角的に見る	<ul style="list-style-type: none"> 対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇に着目して 〇〇を見付けて 〇〇を思い起こして 〇〇を感じて 〇〇を気にしながら 〇〇を意識しながら 見方を変えて 考え方を変えて 多角的に考えて
理由付ける (原因や根拠を見付ける)	<ul style="list-style-type: none"> 対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇を見付けて 原因を予想して 原因を見付けながら

見通す (結果を予想する)	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを立てる。物事の結果を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇を見通して 〇〇を思い描きながら 〇〇を予想しながら 〇〇を振り返って
具体化する (個別化する, 分解する)	<ul style="list-style-type: none"> 対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり, 対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 試しながら 実際に確かめながら 調べてやってみたりして 練習しながら 例を示して
抽象化する (一般化する, 統合する)	<ul style="list-style-type: none"> 対象に関する上位概念や法則を挙げたり, 複数の対象を一つにまとめたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを知って 考えをまとめて
構造化する	<ul style="list-style-type: none"> 考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを整理して 工夫して 〇〇を生かしながら 〇〇を見直ししながら 問いを見出だして

※ 「考えるための技法」は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編に記載されています（中学校も同様、高等学校は総合的な探究の時間で記載）。「みやぎ授業づくりガイド」ではp.2-37で触れています。

表記の例を参考に学習活動中の思考（上記）を考え、さらに、どのような姿が見られたらよいのか（下記の例）を考えます。授業改善の視点（p.2-32～p.2-34）も活用しながら設定してみてください。



○ 教科別の指導の評価規準「③ 『思考・判断・表現』している姿」と各教科等を合わせた指導の目標「③ 児童生徒に身に付けてほしい『思考力, 判断力, 表現力等』」の表記例

教科別の指導の評価規準 ③ 「思考・判断・表現」している姿			各教科等を合わせた指導の目標 ③ 児童生徒に身に付けてほしい 「思考力, 判断力, 表現力等」		
行おうとしている	表している	知らせている	行おうとする	表すことができる	知らせることができる
考えている	表現している	利用している	考える	表現することができる	利用することができる
伝えている	集めている	伝え合っている	伝えることができる	集めることができる	伝え合うことができる
観察している	楽しんでいる	計画を立てている	観察することができる	楽しむことができる	計画を立てることができる
関わっている	遊んでいる	工夫している	関わるることができる	遊ぶことができる	工夫することができる
記録している	交流している	(力を)身に付けている	記録することができる	交流することができる	(力を)身に付けることができる
方法を決めている	捉えている		方法を決めることができる	捉えることができる	

〔参考〕小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編, 学習評価に関する参考資料, 文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」

目標及び評価規準の設定ポイント

㊤ 学びに向かう力、人間性等 ㊥ 主体的に学習に取り組む態度

教科別の指導

目標の設定	評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	→ 主体的に 学習に取り組む 態度	① 学習活動、学習場面、学習状況など ② 主体的に学習に取り組む態度の具体（「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」） ③ 児童生徒の行為（具体的な児童の姿）

評価規準設定例（主体的に学習に取り組む態度）

- 図画工作 ①貼り絵の活動において、紙をちぎる、貼るなどの活動を②教師のやり方を模倣しながら、
③笑顔を見せて取り組もうとしている。（小学部 1段階）
- 体育 ①シュートゲームの学習において、③順番を守ってボールを②進んで、③投げようとしている。
（小学部 3段階Eボールを使った運動やゲームウ）
- 理科 ①昆虫の育て方の学習において、ザリガニの餌やりや水槽の水替えを②友達と力を合わせて行
い、③学習後もザリガニの世話をしようとしている。（中学部 1段階A生命）

各教科等を合わせた指導

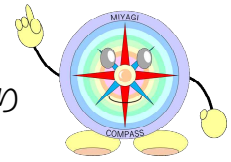
目標の内容に取り入れるポイント	→	評価規準の設定
学びに向かう力、 人間性等 ① 学習活動、学習場面、学習状況など ② 児童生徒に身に付けてほしい「学びに向かう力、人間性等」（・「自分自身に関すること、他者や社会との関わりに関すること」、・「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」） （～しようとする。親しむ。豊かにする。等）		設定した単元（題材） の目標を達成した具 体的な姿（目標と評価 規準が同じになるこ ともある）

目標設定例（学びに向かう力、人間性等）

- 日常生活の指導 ①朝の会に参加することを通し、②一日への希望を持つとともに、②友達と仲良く活動
しようとする。（小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において、②友達と一緒に遊ぶことのよさを感じながら、②興味を持っ
て遊ぼうとする。（小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ①進級についての学習を通し、②新しい友達や先生と一緒に生活することのよさを感じ
ながら、②生活しようとする。（小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①木工の作業を通し、②自分が得意なことを知り、これからの生活に希望を持つとも
に、②自ら進んで取り組もうとする。（中学部「木工作業」）

教科別の指導の評価規準「②主体的に学習に取り組む態度の具体」と各教科等を合わせた指導の目標「②児童生徒に身に付けてほしい『学びに向かう力、人間性等』」を設定するときに押さえない「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」について

- ・ 「粘り強さ」……思いや願いの実現に向かおうとしていること
- ・ 「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること
- ・ 「実感や自信」…意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしようとしたりすることを繰り返し、安定的に行おうとしていること



なお、「実感や自信」は、「学習評価に関する参考資料」において小学校生活科の「学びに向かう力、人間性等」を評価するに当たって踏まえる必要があるとされています。

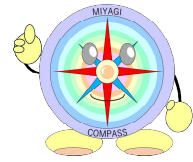
実際の生活に即した学びを行うことの多い特別支援学校（知的障害）、特別支援学級（知的障害）でも同様に考えていくことにします。以下の表を参考にしてください。

○「② 主体的に学習に取り組む態度の具体」と「② 児童生徒に身に付けてほしい『学びに向かう力、人間性等』」の表記例

<p style="text-align: center;">粘り強さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二度、三度と繰り返して ・ 粘り強く繰り返して ・ 見通しを持って ・ 目標に向かって ・ 手順どおりに行って ・ 計画を確実に行って ・ 進んで ・ 友達のしている方に視線を向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで取り組んで ・ 体で表して ・ 考えをはっきりと伝えて ・ 教師と関わりながら ・ 友達と関わりながら ・ 様々な人と関わりながら ・ 自分のよさを生かして
<p style="text-align: center;">学習の調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちを落ち着けて ・ 教師の話を聞いて ・ 自分と友達それぞれのよさを生かして ・ 友達の話を聞いて ・ 友達の思いを理解して ・ 友達の考えを理解して ・ 教師の支援を受け入れて ・ 友達の考えを受け入れて ・ 友達と協力して 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の立場を知って ・ 自分の考えと友達の考えのよさを生かして ・ 手本を模倣して ・ 教師のやり方を模倣して ・ 友達のやり方を模倣して ・ 違った考えを参考にして ・ 新しいことに挑戦して ・ 自分で考えたことを活用して
<p style="text-align: center;">実感や自信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離席せず友達のいる学習の場において ・ いつも同じように〇〇しながら（して） ・ 友達と仲良くしながら 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰に対しても変わらず〇〇しながら（して） ・ 周囲の状況に影響されることがなく〇〇しながら（して） ・ 目標や目的を意識して

〔参考〕学習評価に関する参考資料 小学校生活

知的障害のある児童生徒の実態を踏まえると、将来の自立に向けて「自分や他者、社会」について意識することが大切だと考えます。「学びに向かう力、人間性等」の目標を設定する際は、以下の目標設定要素を参考にしてみてください。



○ 「㊤ 児童生徒に身に付けてほしい『学びに向かう力、人間性等』」の目標設定の要素

<p>自分自身に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする。 ・ 自分の意思で、目標を持って課題の解決に向けて取り組もうとする。 ・ 自己の生き方を考え、夢や希望などを持つようとする。
<p>他者や社会との関わりに関する こと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。 ・ 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けて取り組もうとする。 ・ 進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする。